



2012年冬号

URL : <http://www.karashi.net/>

「チェルノブイリ・プリピャチ市」に働かれた神

人の日は、草のよう。野の花のように咲く。風がそこを過ぎると、それは、もはやない。

10月22日、福島県の先生方を中心に10名で成田を出発しウクライナに向かいました。福島より25年前の1986年4月26日に原発が事故を起こしたチェルノブイリを訪問し、彼らの25年の歩みから学ばせていただくためです。

チェルノブイリ原発の北2キロという至近距離にあった人口5万人の街・プリピャチ市。旧ソ連が世界に誇る理想都市として原発関係者やエリート官僚を住ませるために作り上げたこの街も、今や廃墟。人間の権力と富と繁栄の儂さに厳粛な思いで向き合いました。

同行した柳沢さんがホームステイしたのが、ナターシャさん（41歳）宅。父上が原発関係者でプリピャチ市に住んでいた彼女は15歳の時に事故に遭遇。その時の体験を伺いました。「原発爆発時、プリピャチに爆風が襲っていたら、私たちは逃げる間もなく全滅していくことでしょう。しかし不思議なことに、プリピャチの手前で爆風が二手に分かれ、町を迂回するように通っていったと知らされたのです。旧ソ連体制の下、私は神を感じていませんでした。けれども、私たちが助かった背後に大きな力の存在を強烈に感じました。後になって、あの時、町にあった地下教会の人々が集まって祈っていたと聞いて、その人たちが信じている神が町を助けてくれたのだ、と確信しました。」そこから彼女は地下教会の方々が祈っていたイエス様を求めるようになり、やがて洗礼を受けたそうです。

人間の傲慢は街を廃墟とします。しかしこの絶望の街に働かれた神がおられるのです。皆様の上にもこの神様の豊かな祝福がありますようにお祈りします。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

* F V I の働きはセルフサポートのカタリストによって支えられています。 献金をもってご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」とカタリスト名をご明記ください。